

平成 27 年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

連携協力の新しいステージへ

香川大学教育学部と香川県教育委員会は、平成14年（2002年）5月30日に連携協力に関する覚書を交わしました。覚書を締結してから14年が過ぎ、この連携協力に関する実績を記録する報告書も平成27年度で第14号となりました。

香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携事業は、「教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る」（覚書、第1条）ことを目的として、毎年広範かつ活発に行われています。平成27年度については、教員養成に関する取組みが5件、教員研修に関する取組みが7件、調査・研究に関する取組みが1件、事業に関する取組みが13件、その他の取組みが協議会関係も含めて3件など、合計で29件もの多岐にわたる連携事業が実施されました。毎年2月に開催される連携協議会は、会議と情報交換会をセットにして相互の交流が図られております。

さて、平成27年度における香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力について語るとき、連携協議会のもとに設置された二つの専門委員会の役割について触れなければなりません。一つは、平成28年4月の教職大学院開設を目指した設置準備委員会が果たした役割です。教職大学院の開設に当たっては、教育学部と教育委員会が緊密な協議を行いながら準備を進めることができました。香川県教育委員会の全面的な協力支援を頂けたことで、予定どおり平成28年4月の教職大学院開設にこぎつけることができました。人事面でも、多大なるご配慮を頂いております。

もう一つの専門委員会は、県立高校教育コース設置準備委員会です。この専門委員会は現在進行形で協議を重ねております。県立高校における教育コースの設置は、教職大学院の開設のときと同様に、香川県教育委員会と香川大学教育学部の連携があってこそ実現可能なプロジェクトであると考えております。

ここ数年で、香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携協力はより広範で緊密なものになり、新しい段階（ステージ）へと一歩進んだように思います。今後は、教員の養成・採用・研修を通じて、学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制づくりを連携して模索していくことにならうかと思えます。香川大学教育学部は、これからも、人材育成や地域課題を解決する取り組みを通して地域に貢献する学部として、香川県教育委員会との連携協力の関係を進化させ、両者の協働的な取り組みを一層強力に推進していきたいと考えています。

平成28年3月

香川大学教育学部長

毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、本年度は第2期「香川県教育基本計画」の最終年度を迎え、「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、確かな学力の育成と個に応じた教育の推進等を柱とした教育施策を積極的に展開してまいりました。

このような中、平成14年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携・協力に関する取組は14年を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携・協力しているところです。

本年度の連携事業を振り返りますと、県教育委員会各課主催の、実に多くの事業に対してご支援・ご協力をいただきました。例えば、現職教員研修や初任者研修、88講座に及ぶ教員免許状更新講習等、各種研修における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただきました。また、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたり、県教育センター運営協議会においてご意見を頂戴したりと、様々な場面でご支援をいただきました。さらに、学生ボランティア派遣事業では、120名を超える学生が登録し、県内の各学校や教育支援センター、放課後子ども教室等で子どもに寄り添いながら関わっていただき、多くの感謝の声が寄せられております。次代を担う教員の養成については、公立学校インターンシップを通して、本県の教員採用内定者38名が事前に学校現場を経験し、4月以降の教員としての職務の理解を深める等、これからの香川県の教育を担う人材が育っていることを心強く感じております。

また、本年度は、高校生の段階から教員を志望する若者の資質能力の育成を目指す「香川県立高等学校教育コース」設置準備委員会を立ち上げ、基本構想や教育課程等について積極的な議論が交わされました。これによりいくつかの課題も見えてまいりましたが、コースの開設に向けて今後も検討を重ねていくことで、より良い方向が見えてくることが期待されます。この取組は、高等学校から現職教員の研修まで長いスパンの中で、力のある教員を育てることにつながっていくものであり、連携の新しい形を構築するという意味で、大きな成果であると感じております。

このように、香川大学教育学部と県教育委員会の連携・協力による取組は、この14年で充実・発展してきており、本県の教育を推進する上で、その役割はますます大きくなっております。県教育委員会としても、香川大学教育学部との緊密な連携・協力のもと、教育県香川の一層の発展に向け、最大限の努力をしてまいりたいと考えております。

平成28年3月

香川県教育委員会教育長

西原義一

目 次

はじめに

香川県教育委員会と香川大学教育学部との連携協力のさらなる充実・発展をめざして

香川大学教育学部長 毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 西原 義一

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

平成27年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み一覧 6

【資料編】

- [資料1] 平成27年度公立学校インターンシップ実施要領.....13
- [資料2] 公立学校教員等の活用.....15
- [資料3] 香川大学教育学部の専任教員として.....17
- [資料4] 大学教員の公立学校現場での研修制度.....21
- [資料5] 平成27年度香川県教育委員会免許法認定講習.....22
(特別支援学校教諭)
- [資料6] 教員免許更新講習計画.....23
- [資料7-1] 思考力等の育成モデル校事業.....29

[資料 7-2]	学習意欲向上モデル校事業	30
[資料 7-3]	アクティブ・ラーニングモデル校事業	31
[資料 7-4]	幼児教育支援員派遣事業	32
[資料 7-5]	豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	33
[資料 8]	フレンドシップ事業	34
[資料 9]	情報ネットワークによる大学と公立学校との連携・情報交換	36
[資料 10]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	37
[資料 11]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	38
[資料 12]	学生ボランティア派遣事業	39
[資料 13]	学生ボランティア派遣事業（放課後子ども教室）	40
[資料 14]	第 14 回「未来からの留学生」を終えて	41
[資料 15]	平成 27 年度特別支援教育コーディネーター養成専門研修	43
[資料 16]	香川 CST 事業	44

【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	48
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	49

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	平成 27 年度実績	平成 28 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会（H28.2.10） ○ 幹事会（H28.1.26） <p>(1) 平成 27 年度連携協議会について</p> <p>(2) 平成 28 年度連携事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続連携事業について ・その他 <p>(3) その他</p>	<p>連携協議会開催 (H29.2 予定)</p> <p>・幹事会（1 回程度）</p>	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 27 年度実績報告書作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度実績報告書作成 	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	平成 27 年度実績	平成28年態怳等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	正規 ・附特支 公立 1 校（参観）5 月（1 日間） 特別 ・附高小 公立小 5 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附坂小 公立小 3 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附高中 公立中 4 校（実習）5 月（5 日間） 公立高 2 校（実習）5 月（5 日間） ・附坂中 公立中 1 校（実習）6 月（5 日間） ※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定） ・参加者予定：38 名（学生 37 名、院 1 名） ・実施期間 平成 28 年 2 月～3 月（5 日程度）	・継続実施	資料 1
③公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・退職校長（松井保、藤本泰雄）、指導主事（山内秀則） ・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・継続実施	資料 2
	○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 谷本里都子、高木 愛、田崎伸一郎	・継続実施	資料 3
④大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ・研修者（1 名） 藤 博之 准教授 高松市香川第一中学校	・継続実施	資料 4
⑤総合教育実践研究コース 〔担当：教育学部〕	○ 公立校と附属学校園との連携協力のもとに、協力校における教育実践プログラムの実施 ・履修学生 当該受講者なし	・教職大学院開設にともない廃止	

2 教員研修に関するもの

項 目	平成 27 年度実績	平成28年箇所等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H19.4～8名、H20.4～7名、H21.4～8名 H22.4～7名、H23.4～6名、H24.4～5名、H25.4～5名 H26.4～5名、H27.5名) ・教科教育(教育学、国語) 3名 ・学校臨床実践学 2名 ・学校臨床心理 0名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施	
②特別支援教育コーディネーター専修での現職教員の研修 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 4名、H26.4～ 4名、 H27.4～ 4名)	・教職大学院特別支援教育コーディネーターコースへの内地留学に変更	
③教員免許状取得のための研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(7・8月)への大学教員の派遣等	・継続実施	資料5
④指導改善研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 実施なし	・未定	
⑤教職員研修 (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 初任者研修等、各種研究会・研修会の講師・助言者として大学教員を依頼	・継続実施	

⑥特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 内地留学の実施 (H25.4～ 2名、H26.4～ 2名、 H27.4～ 2名)	・継続実施	
⑦教員免許状更新講習 〔担当：教育学部〕	○ 教員免許状更新講習として必修講座 8、選択講座 80 の計 88 講座 (8 会場) を開設しました。	・教員免許状更新講習として必修講座 5、選択必修講座 17、選択講座 56 の計 78 講座(8 会場) を開設する予定	資料 6

3 調査・研究に関するもの

項 目	平成 27 年度実績	平成28年鑑恒等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・思考力等の育成モデル校事業 ・学習習慣形成モデル校事業 ・アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・幼児教育支援員派遣事業 ・豊かな心を育てる事業	・継続実施	資料 7 -1・2・ 3・4・ 5

4 事業に関するもの

項 目	平成 27 年度実績	平成28年鑑恒等	資 料
①フレンドシップ事業 〔担当：教育学部〕	○ 教育学部学生を対象とした、子どもたちとの野外活動を通して、教育実践のための実践的指導力の基礎を身に付ける研修 ・五色台少年自然センター及び屋島少年自然の家を活用した体験実習	・本事業がなくなるため廃止	資料 8
②情報ネットワークによる大学と公立学校との連携・情報交換 〔担当：教育学部〕	○ 大学が情報ネットワークを活用して大学の保持する情報を提供	・継続実施	資料 9

③キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松北高、丸亀高	・継続実施	資料10
④高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 公開授業：2 講座で 2 校 4 人が受講 ○ 体験授業：1 講座で 11 校 49 人が受講	・継続実施	資料11
⑤学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 122 名） ・学習指導の補助、学校生活への適応補助など 公立小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）に延べ 23 名を派遣	・継続実施	資料12
	○ 「放課後子ども教室」支援ボランティア等の募集 ・支援ボランティアとして 11 名登録	・継続実施	資料13
⑥家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・継続実施	
⑦未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県教委後援） ・約 1000 名超が参加	・継続実施	資料14
⑧県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑨各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・継続実施	
⑩生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開（9 名受講）	・継続実施	

<p>⑪特別支援教育体制整備の推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家チーム ・巡回相談 ・特別支援教育コーディネーター協議会（特別支援教育課） <p>〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校（園）を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	<p>資料15</p>
<p>⑫教材活用促進事業（特別支援教育課）</p> <p>〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大学教員を支援機器等アドバイザーとして研究指定校に派遣 高松養護学校、香川西部養護学校、香川県立聾学校 ○ 研究指定校教員を対象に教材開発や指導方法に関する相談会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・国からの2年間（H27.28）の委託のため廃止 	
<p>⑬香川 CST 事業</p> <p>〔担当：教育学部〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施 ○ CST 養成プログラムの実施（学生向け小学生 CST・教材 CST, 現職職員向け教材 CST） ○ CST 養成プログラムの修了認定 ○ CST 活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	<p>資料16</p>

5 その他

項目	平成 27 年度実績	平成28年度概算	資料
<p>①附属学校への教員派遣（義務教育課）</p> <p>〔担当：県教委〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 27 年度新規派遣 ※（ ）は合計数 ・附属高松小 4（25） ・附属高松中 2（19） ・附属坂出小 3（18） ・附属坂出中 3（19） ・附属特別支援学校 2（29） ・附属幼稚園 0（7） 計 14 名（117 名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	

資 料 編

平成 27 年度公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

平成 28 年 3 月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4 月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

2. 対象者

平成 28 年 3 月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）

3. 参加人数

公立小学校	29 名
公立中学校	7 名
公立特別支援学校	2 名

4. 実施時期・期間

平成 28 年 2 月～平成 28 年 3 月初旬の間で 1 週間（5 日程度）

5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部 4 年	高松市立新番丁小学校	2 月 22 日～2 月 26 日	6 名
教育学部 4 年	高松市立亀阜小学校	2 月 1 日～2 月 5 日	3 名
教育学部 4 年	高松市立多肥小学校	2 月 1 日～2 月 5 日	3 名
教育学部 4 年	高松市立香西小学校	2 月 8 日～2 月 12 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立一宮小学校	2 月 8 日～2 月 12 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立栗林小学校	2 月 15 日～2 月 19 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立太田南小学校	2 月 15 日～2 月 19 日	1 名
教育学研究科 2 年	高松市立太田小学校	2 月 15 日～2 月 19 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立川添小学校	2 月 22 日～2 月 26 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立浅野小学校	2 月 22 日～2 月 26 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立川岡小学校	2 月 22 日～2 月 26 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立国分寺南部小学校	2 月 29 日～3 月 4 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立川東小学校	2 月 29 日～3 月 4 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立紫雲中学校	2 月 8 日～2 月 12 日	2 名
教育学部 4 年	高松市立玉藻中学校	2 月 15 日～2 月 19 日	1 名
教育学部 4 年	高松市立太田中学校	2 月 29 日～3 月 4 日	1 名
教育学部 4 年	坂出市立東部小学校	2 月 1 日～2 月 5 日	2 名
教育学部 4 年	坂出市立坂出小学校	2 月 8 日～2 月 12 日	2 名
教育学部 4 年	坂出市立金山小学校	2 月 29 日～3 月 4 日	1 名
教育学部 4 年	三豊市立勝間小学校	2 月 1 日～2 月 5 日	1 名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	さぬき市立造田小学校	2月1日～2月5日	1名
教育学部4年	観音寺市立豊浜中学校	2月8日～2月12日	1名
教育学部4年	土庄町立土庄中学校	2月15日～2月19日	1名
教育学部4年	東かがわ市立大川中学校	2月29日～3月4日	1名
教育学部4年	香川県立盲学校	2月1日～2月5日	2名

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
 - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4版1枚程度）、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ、教育学部学務係を通じて研修校、香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4版1枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については、香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

平成27年度 第1期教育実践集中講座

「教師になる」とはどういうことか？

～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

【趣 旨】・教員採用試験にチャレンジするための準備講座である。
・教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

【担 当】客員教授 松井 保（高松市立桜町中学校元校長）
客員教授 藤本 泰雄（高松市立栗林小学校元校長）
客員教授 山内 秀則（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
4月23日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(藤本) 【教育法規・教育施策】 「教員に必要な法令知識」	「教職の総合的研究」の講義 を活用して行う。 (毛利先生)
5月14日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(藤本) 【教育法規・教育施策】 「ノウハウ集団面接」	「教職の総合的研究」の講義 を活用して行う。 (毛利先生)
5月21日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習>(藤本) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「学級経営論」の講義を活用 して行う。 (毛利先生)
5月23日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(松井・山内) 【教育法規】Ⅰ「教育目標と教師に求められる力」 「なぜ、法規を学ぶのか？」	「教育法規入門」の集中講義 を活用して行う。 (高木(愛)先生、谷本先生、 田崎先生)
5月30日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(松井・山内) 【教育法規】Ⅱ「教育課程と学校評価」 「今、香川の子どもたちは…」	
6月4日(木) (16:20~17:50)	教授演	<講義・演習>(藤本) 【教職実践講座】 「集団討論・個人面接への対応」	「教職の総合的研究」の講義 を活用して行う。 (毛利先生)
6月6日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習>(松井) 【教育法規】Ⅲ「『生きる力』の育成と学力」	「教育法規入門」の集中講義 を活用して行う。 (高木(愛)先生、谷本先生、 田崎先生)
6月8日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(松井) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の講義を活用 して行う。 (毛利先生)
7月9日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習>(藤本) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義を活用 して行う。(毛利先生)
7月16日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習>(藤本) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義を活用 して行う。(毛利先生)
7月23日(木) (13:00~14:30)	811 講義室	<講義・演習>(藤本) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論」の講義を活用 して行う。(毛利先生)

※ 問い合わせ先 附属教職支援開発センター事務局 TEL: 087-832-1683

平成27年度 第2期教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】客員教授 松井 保 (高松市立桜町中学校元校長)

客員教授 藤本 泰雄 (高松市立栗林小学校前校長)

客員教授 山内 秀則 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)

【日程】

日時	場所	主な内容	備考
10月21日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習> (山内) 【子ども理解】 「総合的なリフレクション」	「教育実践プレ演習」の講義を活用して行う。 (松下先生・七條先生)
10月23日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習> (松井・藤本) 【教育課題の探究】 「いじめと体罰」(松井) 「教員としての倫理観」(藤本)	「教職実践演習」の講義を活用して行う。 (山岸先生・植田先生)
11月4日(水) (13:00~17:00)	415 講義室	<講義・演習> (松井・山内) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」シンポジウム 「教育実習を振り返って」助言	「教育実践演習A」を活用し、教育実習後の事後指導を兼ねる。 (山岸先生)
11月16日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習> (藤本) 【教職理解】 「教職を知る 教職の魅力」	「教職概論(イ)」の講義を活用して行う。 (植田先生)
11月27日(金) (8:50~12:00)	621 講義室	<講義・演習> (松井・藤本・山内) 【シンポジウム】 「いざ、学校へ」仮	「教職実践演習」の講義を活用して行う。 (山岸先生・植田先生)
12月17日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習> (山内) 【生徒指導】ケーススタディ 「望ましい人間関係づくりと生徒指導」仮	「生徒指導論A」の講義を活用して行う。 (毛利先生)
1月18日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習> (山内) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(ロ)」の講義を活用して行う。 (櫻井先生)
1月25日(月) (13:00~14:30)	432 講義室	<講義・演習> (松井) 【道徳教育】ケーススタディ 「教育活動の『要』としての道徳教育」	
3月2日(水) (14:00~15:30)	未定	<講義・演習> (藤本) 【卒業前直前対策講座1】 「4月からの心がまえ」	「卒業前直前対策講座」の講義を活用して行う。 (植田先生)
3月16日(水) (14:00~15:30)	未定	<講義・演習> (藤本) 【卒業前直前対策講座2】 「訊く・聞く・聴く」	

※問い合わせ先 附属教職支援開発センター事務局 TEL: 087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として

～13年目の取り組みと今後の展望～

谷本里都子・高木愛・田崎伸一郎

1 13年目の活動内容 <資料3-2参照>

2 今年度の取り組みの重点

(1) 学校現場に即した授業の充実

交流人事教員が主担当となって実施している科目には、「授業実践論A」「生活科授業研究」「教育法規入門」「教職実践演習」「図画工作教育法」がある。それぞれの授業において、学校現場での実践をふまえた授業を行っている。

「授業実践論A」では、教員の校種や専門研究分野を生かしたより実践的な学習を行っている。教員として求められる基本的な授業づくり（話し方、発問、板書の仕方等）を踏まえ、指導案を作成し、模擬授業を行うなど、より実践的な授業研究を行っている。

「生活科授業研究」では、校外学習に焦点をあて、校外学習を行うにあたっての教員の留意点や教材研究、関係機関との連絡の取り方等を演習形式で学んだり、実際に引率実習したりする。写真は、高松市立新番丁小学校の1年生と一緒に香川大学で「秋みつけ」をしているところである。公立小学校と連携して行っているこの活動も本年で5年目を迎える。

「教育法規入門」では、基本的な法規（教基法、学教法、免許法、教特法、地教法、地公法など）及び答申・通知などについての理解を深め、法令遵守精神の高揚を図っている。受講生は教員採用選考試験を受験する学生がほとんどである。昨年度に引き続き、教育に関する新聞記事を毎回配布し解説することで、教育時事への関心を高めた。また、客員教授による教育事情や生徒指導などについての集中講義も実施し、学校現場の状況についてもふれている。

「教職実践演習」では、主体的に演習や研修会等に参加することを通して、これまでの学生生活で身に付けてきた教員としての資質能力を再確認し、より一層高めることを目的としている。グループワークを毎回取り入れ、チームとして取り組むことの重要性を再確認したり、他者の考え方から自分の視野を広げたり、考えを深めたりしている。昨年度に引き続き、校種や興味・関心に応じた選択コースを設定することで、卒業前の学生に学校現場に即した内容を教授することができた。また、香川県小学校・中学校の教育研究会高松支部のご協力をいただき、現職教員の研修に参加し、学び続ける教員の姿を実際に見ることで今後の将来計画の一助となっている。

(2) 教育委員会・学校との連携

従前と同様、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めている。

今年度も、地域ブロック研修会での講師、研究大会に向けての指導助言者として、様々な教育活動推進に尽力してきた。

学生に対しては、学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒へのかかわり方などの相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加など、様々な体験ができるように配慮している。学校からは校外学習のサポート、学習支援の依頼などもあり、正規の手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行っている。

(3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート

「教職概論Ⅰ」の授業では、初年次教育の重要性を鑑み、教員の使命や仕事、学校の仕組みについて講義を行ったり、教員の魅力ややりがいを伝えたりすることで、教育学部に入学してきた学生のモチベーションの向上に貢献できるように努めている。

「教職の総合的研究」の授業では、教員採用選考試験に向けて、学生が主体的に取り組めるように具体的な授業内容を講義したり、集団討論や模擬授業などの演習を実施したりしている。

また、学生は「教職自主サークル」と呼ばれる教員採用に向けた自主的な活動を、毎週月曜日18時から19時30分までの1時間半行っており、オブザーバーとして依頼されている。この活動には教員を志

指導案を作成し模擬授業を行う



一年生と一緒に「秋みつけ」



望する学生が多く参加しており、学生同士で研鑽する場となっている。活動内容は、集団討論や模擬授業、場面指導などの演習をはじめ、各自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務めるなどしてかわり、教員採用選考試験にとらわれることなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するかなど、学生の考え方に対して、教員としての心構えなどの助言を行っている。今年度は新たに、「養護教諭との交流会」「先輩教員からの模擬授業指導」を実施し、教育学部の学生のみならず、医学部看護科等の他学部生や院生も多数参加し、学びを深めた。また昨年度に引き続き、教員としての生活について教職に就いている卒業生から話を聞く「卒業生と在校生の交流会」を2月に実施する予定である。

教職自主サークル「集団討論」



教職支援リーフレット



「教職自主サークル」での学生との交流や「教育法規入門」等の授業によるつながりにより、願書の添削や小論文指導、模擬授業の指導の依頼、悩みごとを抱える学生の相談等、交流人事教員の研究室を訪れる学生は多い。教育実習前・中には、指導方法や子どもへの接し方等について相談を受けたり、就職支援員の担当者を中心に、就職支援委員会の教員らとともに学生一人一人の就職支援を細やかにしたりしている。また、本年度は教職支援のためのリーフレットを作成し、教育学部3年生に配付し、進路指導に役立てている。

(4) 学外との連携

10月11日(日)、教育学部フェスティバル in 香大「未来からの留学生」に「LEGOで遊ぼう！」の講座を開講して、学生と子どもたちがふれあった。教育実習などでは体験したい内容であり、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもにやり方を伝えるための語りかけ方などを学ぶよい機会となった。また、昨年度まで8年間実施していた学生企画イベント「きょうから音読名人！」をより学生が参加しやすい形に変え、「音読教室」と名称を変更して実施した。各領域から参加した30名以上の学生が企画運営に携わり、子どもたちへのかかわり方や音読の指導について学ぶ場となった。

また、高松市の「寛学事業音読劇上演会」として、教育学研究部の4年生が菊地寛の作品を音読劇にしたものを、高松市立牟礼南小学校で上演する予定である。

(5) 研究活動の充実

「教職支援開発センタープロジェクト 実践講座」として25年度末より、卒業前対策講座として、新規採用者、講師採用者に対して、教員になるための心構えを集中講義している。これまでの交流人事教員にも参加していただき、より多くの学生や若年教員に参考にしてもらう入門書として、『教員として はじめの第一歩 ～若き力を生かしてはばたけ～』を3月に刊行予定である。

個人的な研究では、昨年に引き続き「挑戦的萌芽研究」を申請した。また、日本教育大学協会四国地区研究集会では、「教員養成に係る交流人事教員の取り組み」について発表を行った。さらに、全国教育系大学交流人事教員交流研究集会での実践発表を行った。

3 今後の課題

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの校種や経験から、教員という仕事のやりがいやすばらしさについて伝えるとともに、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。そのために、学生の自主的な活動をサポートし、より教育現場に即した内容を今後も提供していきたい。教員をめざす学生に実践的な学びを保証するためにも、教育委員会や学校現場とのパイプを太く保ち続けていく必要がある。

大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上に励んでいく所存である。

また、平成28年4月より教職大学院がスタートする。1名の交流人事教員が実務家教員としてスタッフに加わり、現職教員やこれから教員をめざすストレートマスターの学生の指導が業務の中心となる。交流人事教員のこれまでの教職支援へのかかわり方は大きく見直されることになる。これまで学部生への指導を中心としてきたが、今後、大学院生や現職教員への指導についても新たなミッションとして捉え、積極的な取り組みを進めていきたい。

13年目の活動内容

1 学内における活動

(1) 委員会等

<谷本> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、企画委員会、広報委員会、未来からの留学生アドバイザー

<高木> 教育実習実施専門委員会、広報委員会、未来からの留学生アドバイザー

<田崎> 学生支援専門委員会、未来からの留学生アドバイザー、広報委員会、教職大学院プレ専攻委員

(2) 授業等

<谷本> 大学入門ゼミ、道德教育論イ・ロ、学校教育課程論B、教職概論イ、教職実践演習、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論A、教育実践演習A・B、教育実践基礎研究Ⅱ、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査

<高木> 教育学演習ⅠB、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、特別活動論ロ、教育実践演習A・B、図画工作教育法ロ、教育実践基礎演習、教職実践演習、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査

<田崎> 大学入門ゼミ、生活科授業研究、生活科研究、教育実践基礎演習、学校教育課程論A、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論A、教育実践演習A・B、教職実践演習、教育実践基礎研究Ⅰ、就職セミナー、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイドンス、教職自主ゼミ、卒論副査

(3) その他

<谷本> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「LEGOで遊ぼう！」講座担当、松楠会学内理事、卒業前対策講座担当

<高木> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、松楠会学内理事、卒業前対策講座担当

<田崎> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生「音読教室」講座担当、オープンキャンパス(学生指導)、卒業前対策講座担当

2 学外における活動

(1) 研究業績

<谷本>

(編著者)『道德教育に求められるリーダーシップ』(美巧社、2016.03(予))

『教員として はじめの第一歩ー若き力を生かしてはばたけー』(美巧社、2016.03(予))

(論文等)「香川大学教育学部における教職を志望する学生への支援体制に関する研究」

(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第31号』2015.09) (共著)

「交流人事教員としての教職支援へのかかわりー教職自主サークルの新しい展開ー」

(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第32号』2016.03(予)) (共著)

「教育実習事前事後指導の改善」

(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第32号』2016.03(予)) (共著)

(学会発表等)「交流人事教員としての教職支援へのかかわりー教職自主サークルの新しい展開ー」

(平成27年度日本教育大学協会四国地区研究集会「香川集会」2015.12)

(香川大学 人文社会科学系シンポジウム2016.02(予))

<高木>

(編著者)『教員として はじめの第一歩ー若き力を生かしてはばたけー』(美巧社、2016.03(予))

(論文等) 「香川大学教育学部における教職を志望する学生への支援体制に関する研究」
(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第 31 号』2015.09) (共著)
「交流人事教員としての教職支援へのかかわりー教職自主サークルの新しい展開ー」
(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第 32 号』2016.03 (予)) (共著)
「教育実習事前事後指導の改善」
(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第 32 号』2016.03 (予)) (共著)
(学会発表等)

<田崎>

(編著者) 『教員として はじめの第一歩ー若き力を生かしてはばたけー』(美巧社、2016.03(予))
(論文等) 「交流人事教員としての教職支援へのかかわりー教職自主サークルの新しい展開ー」
(『香川大学教育学部附属教育実践総合研究 第 32 号』2016.03 (予)) (共著)
(学会発表等) 「香川大学における教職支援」(平成 27 年度交流人事教員交流研究集会 2015.09)

(2) 社会的活動

<谷本>

(委員等) 平成 27 年度道德教育地域支援委託事業研究推進委員
(講演等) 平成 27 年度道德教育地域支援委託事業指導・講話(2015.06、2016.02 (予))、高松市総合教育センター 教職 2 年経験者研修会、教職 5 年経験者研修会 スキルアップ(道德教育)研修講座 指導・講話(2015.07)、高松第一学園校内研修講師(2015.07)、坂出市立坂出中学校校内研修講師、公開授業の指導・助言(2015.07、08、10、11)、香川県中学校教育研究会道德教育部会研修会講師(2015.08)、坂出市教育研究所学校教育課題部会研修会講師(2015.08)、香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会
(その他) 第 49 回 全日本中学校道德教育研究大会(2015.09)、大学入試センター試験(監督)

<高木>

(委員等) 香川県がん教育推進委員
(講演等) 香川県教職員連盟講師部会研修会講師、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会
(その他) 大学入試センター試験(監督)、「音読劇上演会」指導・引率

<田崎>

(講演等)
(その他) 大学入試センター試験(監督)、日本教育大学協会四国地区研究集会(受付・運営等)、全国小・中学校作文コンクール(香川県審査)、「音読劇上演会」指導・引率

大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

平成 27 年度は、理科教育の藤 博之教員が高松市立香川第一中学校で研修に取り組んでいます。

研修を行った大学教員

准教授 藤 博之（理科教育・物理学）
研修校 高松市立香川第一中学校
研修期間 平成 28 年 2 月 16 日～19 日（4 日間）

平成27年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日
講義 I	聴覚障害児の教育課程・指導法	69名	7月25日(土)・26日(日) (講義16時間)
講義 II	知的障害児の教育総論	80名	7月29日(水)・30日(木) (講義16時間)
講義 III	病弱児教育総論	93名	8月17日(月)・19日(水) (講義16時間)
講義 IV	視覚障害児の心理・生理・病理	64名	8月23日(日)・24日(月) (講義16時間)

3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 II	7/29	知的障害児の教育総論	教授 坂井 聡
	7/30		教授 武藏 博文
講義 III	8/17・19	病弱児教育総論	教授 西田 智子
講義 IV	8/23・24	視覚障害児の心理・生理・病理	教授 惠羅 修吉

平成 27 年度 香川大学教員免許状更新講習

1. 平成 27 年度 教員免許状更新講習 実施状況 (平成 27 年 7 月～11 月)

(ウ)

申込者数	区分	開設講座数	受講者数 (認定数)	欠席者数	辞退者数
604	必修講座	8	482	2	2
	選択講座	79	1,290	5	14
合計		87	1,772	7	16

日程	開設講座	担当教員	申込数	出席者数	欠席者数
7月4日(土) 7月5日(日)	1)教育の最新事情<三豊市>	松井 剛太 武藏 博文 山岸 知幸 大久保 智生	47	47	
7月4日(土)	9)食生活と健康	加藤 みゆき	13	13	
	10)「動物文学」を分析する	渡邊 史郎	14	14	
	11) Graded Readers を利用した読解授業の試み-原作との比較を交えて-	山内 玲	5	5	
	12) 対人関係ゲームによる仲間づくり(入門編)	宮前 淳子	40	40	
	13) 英仏美術教育の現在形～英仏の芸術教育の取組に基づき美術教育の可能性を検討する～	安東 恭一郎	8	8	
	14) 学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	石川 雄一	4	3	1
	15) 生活習慣と健康	宮武 伸行	60	60	
7月5日(日)	16) 衣生活の管理	小川 育子	13	13	
	17) 小学校における「異年齢集団による交流」の取組み	毛利 猛	17	17	
	18) 小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	19	19	
	19) 数や図形の見方の発展	佐竹 郁夫	12	12	
	20) 初歩の陶芸	倉石 文雄	20	20	
8月20日(木) 8月21日(金)	2)教育の最新事情	毛利猛 宮前淳子 小方朋子 葛城浩一	117	116	1
8月20日(木) 8月21日(金)	3)教育の最新事情<土庄町>	七條正典 岡田涼 柳澤良明 山本珠美	27	27	
8月19日(水)	21)幼稚園教員の転換点について考える	片岡 元子	16	16	
	22)学校教育の日独比較	柳澤 良明	25	25	
	23)哲学教育とこども哲学	三宅 岳史	9	9	
	24)初等教育における第二言語(英語)習得支援を認知言語学から考える。	山下 明昭	2	2	
	25)教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	122	121	1
	26)精神看護学から人生論を考える	渡邊 久美	8	8	
	27)環境刺激に対する植物の応答と適応	藤田 政之	2	2	
	28)ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	5	5	

8月20日(木)	29)外国人児童生徒と言葉について考える	山下 直子	3	3	
	30)ことばについて考える -日本語の音声を中心に-	轟木 靖子	24	24	
	31)ヨーロッパの時代区分をめぐる諸問題	中谷 博幸	5	5	
	33)個に応じた支援と社会性育成	武藏 博文	31	31	
	34)職業教育を考える	山田 貴志	9	9	
8月21日(金)	35)これまでとこれからの食育を考える	藤原 章司	63	63	
	36)空間図形の指導を考える	風間 喜美江	6	6	
	37)学齢期における社会的スキルの課題と対応	宮前 義和	14	14	
	38)幼児期の発達理解と保育づくり	松本 博雄	19	19	
	39)商品学	古川 尚幸	5	5	
8月27日(木) 8月28日(金)	4)教育の最新事情	七條 正典 山田 俊介 山岸 知幸 清國 祐二	97	96	1
8月27日(木) 8月28日(金)	5)教育の最新事情<丸亀市>	毛利 猛 坂井 聡 松原 勝敏 葛城 浩一	51	51	
8月26日(水)	40)からだでこころで感じて動く表現の世界	藤元 恭子	26	26	
	41)授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	4	4	
	42)特別支援教育	西田 智子	43	42	1
	43)英語科における異文化理解-教材から言語文化情報を読み取る	竹中 龍範	10	10	
	44)成人のフィジカルアセスメントと高齢者疑似体験	大森 美津子 當目 雅代 金正 貴美 西村 美穂	29	29	
45)理科教育現場に海を	多田 邦尚	5	5		
8月27日(木)	46)国語科表現演習	佐藤 明宏	10	10	
	47)絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	10	10	
	48)理科教育の新しい教材-科学的リテラシーと科学的思考力を育てるために	笠 潤平	7	7	
	49)哲学の源流としてのギリシア哲学	齊藤 和也	1	1	
	50)小児保健	日下 隆 岡田 仁 岩瀬 孝志 西庄 佐恵	36	36	
8月28日(金)	51)音楽学応用演習	稲田 隆之	6	6	
	52)数学の考え方	野原 雄一	5	5	
	54)臨床心理学的な事例検討	竹森 元彦	18	18	
	55)バイオディーゼル燃料を作る	川浪 康弘	9	9	
	56)エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	19	19	
9月5日(土) 9月6日(日)	6)教育の最新事情	櫻井 佳樹 西田 智子 柳澤 良明 加野 芳正	68	68	
9月5日(土)	57)水をテーマとしたフィールドワークの方法-河川流域の姿を探る-	新見 治	20	20	
	58)教育心理学からみた学習意欲	岡田 涼	29	29	
	59)心の教育の在り方について考える	七條 正典	21	21	
	60)体育授業と学級づくりの実際	野崎 武司	27	27	
9月6日(日)	32)理科教育の基本的なところを改めて検討する	北林 雅洋	4	4	
	61)器楽演奏のヒント	柳井 修 青山 夕夏	2	2	
	62)教育とユーモア	櫻井 佳樹	27	27	
	63)地図に表れた高松 400 年の変化から学ぶこと	武重 雅文	19	19	
	64)ESD(持続発展教育)から始める道徳教育	伊藤 裕康	2	2	
65)子どもの心と社会のモラル	植田 和也	19	19		

10月3日(土) 10月4日(日)	7)教育の最新事情<さぬき市>	有馬 道久 松本 博雄 小方 朋子 加野 芳正	28	28	
10月3日(土)	66)子どもの視座から教育実践を考える	山岸 知幸	30	30	
	67)発達障がいのある幼児・児童・生徒とかわるために	坂井 聡	51	51	
	68)ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	12	12	
	69)運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	28	27	1
	70)環境に優しい化学実験	高木 由美子	4	4	
	71)地学の最近のあたらしい話題について	松村雅文 寺尾 徹	5	5	
10月4日(日)	72)地球とその歴史を探る	寺林 優	12	12	
	73)体の中ではたらく分子	小森 博文	3	3	
	74)数学――中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	9	9	
	75)「生活と環境」の授業研究	妹尾 理子	4	4	
	76)環境法	小澤 久仁男	1	1	
	77)発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	16	16	
11月14日(土) 11月15日(日)	8)教育の最新事情	松井 剛太 竹森 元彦 松原 勝敏 山本 珠美	49	49	
11月14日(土)	78)篆刻 ―印章の制作―	小西 憲一	24	24	
	79)思想史を学ぶ意義を考える	石川 徹	2	2	
	82)ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→やってみよう！	松下 幸司	17	17	
	84)プログラミング言語の最新動向	香川 考司	5	5	
11月15日(日)	85)性はなぜあるのか？	松本 一範 篠原 渉	11	11	
	86)表現を探る -楽曲の分析を通して-	岡田 知也	8	8	
	87)刑事裁判と社会	吉井 匡	6	6	
	88)資本主義の仕組み	沖 公祐	2	2	
	89)発達障害の心理学	惠羅 修吉	44	43	1

2. 平成 28 年度 教員免許状更新講習計画

区分	講座数	定員(人)
必修講座	5	600
選択必修講座	17	609
選択講座	56	1475

【必修講座】

実施日	講習名	担当教員	定員[人]	備考
6月18日(土)	1) 教育の最新事情	櫻井 佳樹 坂井 聡	150	
7月25日(月)	2) 教育の最新事情	柳澤 良明 大久保 智生	120	※ ¹ 丸亀
8月5日(金)	3) 教育の最新事情	有馬 道久 岡田 涼	150	
9月3日(土)	4) 教育の最新事情	毛利 猛 宮前 淳子	100	
10月1日(土)	5) 教育の最新事情	松井 剛太 松本 博雄	80	

【選択必修講座】

教:教諭 養:養護教諭 栄:栄養教諭

実施日	講習名	担当教員	定員	※ ² 主な職種	備考
6月19日(日)	学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-1	山岸 知幸 加野 芳正	40	教・養・栄	
6月19日(日)	学校、家庭並びに地域の連携及び協働	山本 珠美	60	教・養・栄	
7月26日(火)	国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	30	教・養・栄	※ ¹ 丸亀
7月26日(火)	教育相談について考える	宮前 義和	50	教・養・栄	※ ¹ 丸亀
8月8日(月)	学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-2	加野 芳正 葛城 浩一	40	教・養・栄	
8月8日(月)	カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	20	教・養・栄	
8月9日(火)	道徳教育の充実	植田 和也	50	教・養・栄	
8月9日(火)	学校カウンセリングの基本	山田 俊介	30	教・養・栄	
8月10日(水)	わが国の英語教育-その歴史と現状-	竹中 龍範	30	教	
8月10日(水)	学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-3	葛城 浩一 山岸 知幸	40	教・養・栄	
8月10日(水)	授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	黒田 勉	30	教・養・栄	
9月4日(日)	道徳教育	七條 正典	30	教・養・栄	
9月4日(日)	ニュージーランドにおける中・高等学校での外国語教育:過去と現在	バテン ポール	25	教	
10月2日(日)	学校・家庭・地域の連携	清國 祐二	50	教・養・栄	
10月2日(日)	発達障害と教育相談	武藏 博文	30	教・養・栄	
10月2日(日)	初等教育における第二言語(英語)習得支援を認知言語学から考える。	山下 明昭	30	教	
11月12日(土)	ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう!→考えてみよう!→やってみよう!	松下 幸司	24	教	

【選択講座】

教:教諭 養:養護教諭 栄:栄養教諭

実施日	講習名	担当教員	定員	※3対象職種	備考
6月25日(土)	食生活と健康	加藤 みゆき	15	教・栄	
6月25日(土)	小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	25	教	
6月25日(土)	国語科表現教育演習	佐藤 明宏	30	教	
6月25日(土)	VBAによるフォームコントロールプログラム講座	宮崎 英一	10	教	
6月25日(土)	ヨーロッパの時代区分をめぐる諸問題	中谷 博幸	30	教	
6月25日(土)	初歩の陶芸	倉石 文雄	16	教	
6月26日(日)	器楽演奏のヒント	青山 夕夏 柳井 修	15	教	
6月26日(日)	性はなぜあるのか？	松本 一範 篠原 渉	25	教	
6月26日(日)	文化人類学	緒方 宏海	100	教	
6月26日(日)	学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント	石川 雄一	20	教	
7月27日(水)	児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	30	教	
7月27日(水)	老荘思想について考えるー固定観念からの解放ー	池田 恭哉	20	教	※1丸亀
7月27日(水)	アントレプレナーシップ教育	大北 健一	100	教	※1丸亀
7月28日(木)	生活習慣と健康	宮武 伸行	50	教・養・栄	
7月29日(金)	食料生産と自然エネルギー	松村 伸二	15	教	
8月5日(金)	酵素のかたちを見るー立体構造解析の基礎ー	櫻庭 春彦	15	教	
8月5日(金)	在宅療養高齢者とその家族支援	松井 妙子 沖 亜沙美	30	教・養・栄	
8月5日(金)	子どもの発育発達と体力	山神 眞一	30	教・養	
8月5日(金)	少子高齢社会における生活経営	時岡 晴美	25	教・養・栄	
8月8日(月)	憲法判例を読む	岸野 薫	20	教	
8月8日(月)	エクセルを用いた基本統計処理	堀川 洋	20	教	
8月8日(月)	はじめての特別支援教育	小方 朋子 中島 栄美子	30	教・養・栄	
8月8日(月)	日本古典文学を読むー一萬葉集を中心に、源氏・伊勢を考えるー	西山 弘子	30	教	
8月9日(火)	救急災害医療コース(心停止、脳卒中、災害)	黒田 泰弘	50	教・養・栄	
8月9日(火)	社会と歴史の教育	鈴木 正行	40	教	
8月10日(水)	哲学教育とこども哲学	三宅 岳史	15	教	
8月10日(水)	実教諭	岡 晋平	25	教	
8月10日(水)	理科教育の基本的なところを改めて検討する	北林 雅洋	30	教	
8月23日(火)	ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	25	教	
8月23日(火)	英語科における異文化理解ー教材から言語文化情報を読み取る	竹中 龍範	30	教	

8月23日(火)	幼稚園教員の転換点について考える	片岡 元子	20	教	
8月23日(火)	思想史を学ぶ意義を考える	石川 徹	25	教	
8月23日(火)	算数教育における概念形成-図形・分数を例に-	長谷川 順一	20	教	
8月24日(水)	日常生活から法律問題を考える	前原 信夫	20	教	
8月24日(水)	疾患を持ちながら生活する子ども達	谷本 公重	15	教・養・栄	
8月24日(水)	特別支援教育	西田 智子	30	教・養	
8月24日(水)	理科で必要な思考操作能力の発達を促すイギリス型の授業の実習	笠 潤平	20	教	
8月24日(水)	体育授業と学級づくりの実際	野崎 武司	30	教	
9月10日(土)	細菌を用いた基礎的な遺伝子工学実験	木村 義雄	10	教	
9月10日(土)	国際貿易の基礎理論:比較優位の考え方	井上 貴照	20	教	
9月10日(土)	発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	15	教	
9月10日(土)	戦後文学と宗教	渡邊 史郎	30	教	
9月11日(日)	数学—中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	30	教	
9月11日(日)	「生活と環境」の授業研究	妹尾 理子	15	教	
9月11日(日)	絵画(木炭デッサン)制作	古草 敦史	10	教	
9月11日(日)	地球とその歴史を探る	寺林 優	15	教	
9月11日(日)	ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	30	教	
10月8日(土)	プログラミング言語の最新動向	香川 考司	25	教	
10月8日(土)	会計の基礎と国際的動向	朴 恩芝	30	教	
10月8日(土)	天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	16	教	
10月8日(土)	表現を探る -楽曲の分析を通して-	岡田 知也	8	教	
10月8日(土)	運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	30	教	
10月9日(日)	身の回りの化学物質・化学製品	深田 和宏	10	教	
10月9日(日)	ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	25	教	
10月9日(日)	数学 — 中学・高校数学からの若干の逸脱、初等整数論を中心に	高野 啓児	30	教	
10月10日(月)	環境に優しいマイクロスケール化学実験	高木 由美子	30	教	

*応募人数が5名に満たない講座は、講習を廃止。日程・会場は変更の場合あり。

※¹丸亀は、丸亀市(丸亀市綾歌総合文化会館、丸亀市栗熊コミュニティーセンター)で計画

※²【選択必修講座】の主な職種に記載のない免許も受講可

※³【選択講座】の対象職種に記載のない免許は、受講不可

思考力等の育成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力、判断力、表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などで適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立下笠居小学校	平成 27 年 5 月 14 日 (木) 15:10 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	生活科及び総合的な学習の時間の授業検討会での指導
	平成 27 年 7 月 29 日 (水) 9:00 ~ 12:00	教授 伊藤 裕康	生活科及び総合的な学習の時間の授業検討会での指導
	平成 27 年 8 月 7 日 (金) 9:00 ~ 12:00	教授 伊藤 裕康	生活科及び総合的な学習の時間の授業検討会での指導
	平成 27 年 9 月 17 日 (木) 15:10 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	生活科及び総合的な学習の時間の授業検討会での指導
	平成 27 年 10 月 8 日 (木) 15:10 ~ 16:30	教授 伊藤 裕康	生活科及び総合的な学習の時間の授業検討会での指導
	平成 27 年 11 月 10 日 (火) 15:10 ~ 16:30	教授 坂井 聡	ユニバーサルデザインの教育指導・講話
観音寺市立栗井小学校	平成 27 年 6 月 24 日 (水) 13:45 ~ 16:00	教授 佐藤 明宏	国語の授業で思考力を育てるための手立ての講話
	平成 27 年 11 月 4 日 (水) 13:45 ~ 16:00	教授 佐藤 明宏	思考力の評価の工夫についての講話

※ モデル校の研究内容

- 高松市立下笠居小学校
研究主題 他と関わり合いながら、主体的に学ぶ児童の育成
～交流活動を通して、生き生きと学び合う子どもの姿をめざして～
- 観音寺市立栗井小学校
研究主題 確かな学力を身につけ、主体的に学ぼうとする子どもの育成
～問題解決的な学習を通して～

学習意欲向上モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習意欲の向上に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、興味・関心を生かし、学習意欲を喚起する授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
綾川町立 綾上小学校	平成 27 年 7 月 1 日 (水) 13 : 50 ~ 16 : 30	教授 佐藤 明宏	国語の授業の指導
	平成 27 年 8 月 17 日 (月) 10 : 00 ~ 11 : 30	教授 伊藤 裕康	主体性をはぐむ学習指導の 在り方についての講話
三豊市立 二ノ宮小学校	平成 27 年 8 月 26 日 (水) 9 : 00 ~ 11 : 30	教授 伊藤 裕康	これまでの研究と今後の方向 性についての指導

※ モデル校の研究内容

■ 綾川町立綾上小学校

研究主題 学び合い認め・高め合い・共生し夢をもつ子ども
～学び続け、生き方を見つめる力の育成～

■ 観音寺市立中部中学校

研究主題 確かな学力を育み 主体的に学び続けるための学習意欲の向上
～学びへの必要感と自己有用感の醸成に着目して～

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

1 趣旨について

新しい時代に必要となる資質・能力の育成のためには、従来のような受け身型の授業から、子どもたちが課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ授業（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）への転換を図る必要がある。

本事業は市町との連携・協力の下、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を先導的に研究するために、モデル校を指定するものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の研究を行い、その成果を普及することで、県下の児童生徒の資質・能力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、香川の教育づくり発表会・香川県教育センター発表会を通して研究成果の普及・啓発に努める。また、授業の積極的な公開に努める。
- (3) モデル校は、香川県教育センターの調査研究事業に協力する。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などを行い、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、必要に応じて香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、モデル校に指導主事を継続的に派遣して適切に支援したりモデル校の取組を評価したりする。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
坂出市立坂出小学校	平成 27 年 5 月 20 日 (水) 14:00 ~ 16:30	准教授 貞廣美津子	授業、討議参観 (6 年家庭科)、指導
観音寺市立観音寺中学校	平成 27 年 6 月 8 日 (月) 15:30 ~ 16:30	准教授 鈴木正行	学校の取組への助言

※ モデル校の研究内容

- 高松市立協和中学校
研究主題 みんながもれなく「学び合う」授業づくり
～協同学習による授業改善～
- 高松市立牟礼小学校
研究主題 自信をもって生き生きと学習する子どもの育成
～課題解決学習を通して協働思考の活性化を図る～
- 観音寺市立観音寺中学校
研究主題 生徒一人一人が主体的に取り組み、確かな学力を身につける学習指導のあり方
～アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた学び合う場の充実～
- 坂出市立坂出小学校
研究主題 自ら考え、ともに学び高めあう児童の育成
～主体的・協働的に学ぶ学習活動の充実を目指して～

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
2	松本 博雄	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	片岡 元子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	金子 之史	香川大学教育学部名誉教授 理科教育

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（10市町18園）

	園名	訪問日時	研修内容	支援員
1	丸亀市立城辰幼稚園	6月8日(月)全日	子ども発達、興味・関心に即した援助	金子之史先生
2	坂出市立松山幼稚園	6月12日(金)午後	遊びこめる環境構成について、園内研究の在り方	金子之史先生
3	まんのう町立長炭幼稚園	6月17日(水)午前	幼児の言動と教師の願いの整合	松井剛太先生
4	直島町立直島幼稚園	6月24日(水)午後	友だちと目的を共有し、伝え合う力の育成	金子之史先生
5	三豊市立大見幼稚園	7月1日(水)全日	幼児の言動から内面や育ちを理解すること	金子之史先生
6	宇多津町立宇多津幼稚園	7月14日(火)全日	保幼小中一貫した教育を旨とした幼児期の在り方	松井剛太先生
7	さぬき市立志度幼稚園	9月10日(木)全日	幼児期にふさわしい豊かな心と健やかな体の育成	松本博雄先生
8	さぬき市立寒川幼稚園	9月14日(月)全日	適切な幼児理解につながる評価・記録の在り方	松本博雄先生
9	さぬき市立さぬき南幼稚園	9月15日(火)全日	幼児期にふさわしい学級集団づくり	片岡元子先生
10	綾川町立粉所幼稚園	9月17日(木)午前	友だちとのかかわりの中で自己発揮する力の育成	金子之史先生
11	坂出市立加茂幼稚園	10月7日(水)午後	友だちとつながり合い、育ち合う幼児期の集団づくり	金子之史先生
12	まんのう町立満濃南幼稚園	10月16日(金)午前	一人一人の発達の特性に応じた支援	片岡元子先生
13	さぬき市立長尾幼稚園	11月11日(水)全日	主体性を育む環境構成と教師の役割	金子之史先生
14	東かがわ市立丹生幼稚園	11月12日(木)午後	子どもの表現を豊かにする環境構成や援助	松井剛太先生
15	高松市立檀紙幼稚園	12月10日(木)午後	子どもの主体性と教師の意図性の整合	松井剛太先生
16	高松市立木太幼稚園	12月15日(火)全日	生き生きを遊びこむ中で育つ力と適切な支援	片岡元子先生
17	さぬき市立さぬき北幼稚園	1月13日(水)全日	自分なりに遊びを創り出す力の育成	松本博雄先生
18	高松市立国分寺北部幼稚園	2月4日(木)午後	自尊感情を育む支援と幼児期のなかまづくり	片岡元子先生

豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

趣旨

道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実と共に道徳の時間の指導の充実が求められている。平成 26 年 10 月には中央教育審会より、道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として位置付ける答申も出されている。教科化を踏まえ、生命を大切にす心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳の時間の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切にしていく意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として各学校の教育課題や希望により派遣し、より体験的、感動的な道徳教育を展開する。
 - ◆平成 27 年度 134 校に派遣予定 (6~2 月)

道徳教育指導力向上研修

- これまでに作成した教材や「私たちの道徳」を活用した授業の板書計画作成と授業実践の交流等、道徳教育の充実に関する研修会を開催する。
 - ◆平成 27 年 6 月 16 日 (火) 県教育センター 講話：七條正典教授、植田和也准教授、教材を活用した演習
 - ◆平成 27 年 11 月 13 日 (金) 県教育センター 中央研修等報告、国の方針の伝達、部会別協議

道徳教育地域支援事業 (国)

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を印刷・児童生徒に配布することで、道徳の時間の学習等での積極的な活用を推進する。
 - ◆ 7 月に配布
 - 道徳教育研究推進校における実践研究 (平成 27 年度研究推進校 高松市立香東中学校、坂出市立坂出中学校、三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校、丸亀市立郡家小学校、小豆島町立安田小学校)
 - ◆ 第 1 回推進会議 (平成 27 年 6 月 4 日) での指導講話：植田和也准教授、谷本里都子准教授

心のメッセージコンクール (新規)

- 温かな言葉をかけたりかけられたりした経験等を短い文章と絵で表現した「心のメッセージ」を募集し、児童生徒の自尊感情の高揚と道徳的实践や心情と結びついた道徳教育の一層の推進を図る。
 - ◆ 審査会 平成 27 年 11 月 26 日 (月) 県教育センター 審査委員長 植田和也准教授

平成27年度 フレンドシップ事業「教育実践基礎演習」実施計画

学校教育教員養成課程の選択科目として開講される平成27年度「教育実践基礎演習」は、平成27年度フレンドシップ事業に基づき実施される。ここでは、受講者が、学校教育の場である学校から離れた野外での子どもたちとふれあう様々な活動体験を通して、子どもの気持ちや行動を理解し、教育実践のための実践的指導力の基礎を身に付けることを目的としている。

1 実施組織

(1) 専門委員

七條 正典	(附属教職支援開発センター)
佐藤 明宏	(国語教育)
高橋 尚志	(理科教育)
稲田 隆之	(音楽教育)
野崎 武司	(保健体育)
宮崎 英一	(技術教育)
田崎伸一郎	(教職実践)
松下 幸司	(附属教職支援開発センター)

(2) 事務担当

高橋 郷子	(学務係長)
小橋 美幸	(学務係)
松井 梨奈	(附属教職支援開発センター)

(3) 関係機関

香川県立五色台少年自然センター
香川県立屋島少年自然の家
香川大学教育学部附属坂出小学校

2 受講者

教育学部2年次学生(受講者数に応じて3年次学生・4年次学生・他学部で教員を志す学生も受講可)
20名程度を予定

3 評価

評価は、授業への参加と参加体験等に関する活動の記録・レポートを基に、平成27年度フレンドシップ事業実施専門委員会において行い、合格者には1単位を認定する。

4 実施日程及び場所

(1) オリエンテーション

平成27年 4月22日(水) 13:00～14:30 於：教育学部教授法演習室
(学生受講決定・役割分担)

(2) 事前指導

平成27年 5月27日(水) 12:10～12:50 於：教育学部教授法演習室
(五色台指導者講習会周知)

平成27年 6月10日(水) 12:10～12:50 於：教育学部教授法演習室
(附属坂出小学校 野外教育体験活動周知)

(3) 野外教育体験

■指導者講習野外教育体験活動(1泊2日)

平成27年 6月6日(土)～6月7日(日) 於：五色台少年自然センター
五色台少年自然センターにおける指導者講習会に参加

■野外教育体験活動(宿泊研修)(1泊2日)

平成27年 6月19日(金)～6月20日(土) 於：屋島少年自然の家
附属坂出小学校の野外教育体験活動(宿泊研修)に参加

5 授業内容

(1) オリエンテーション 4月22日 担当：専門委員・事務担当

平成27年度フレンドシップ事業として実施する「教育実践基礎演習」の概要と
実施計画に関する説明

(2) 事前指導 5月27日・6月10日

- ① 野外教育関連施設であり、指導者講習会実施場所である「香川県立五色台少年自然センター」の施設や事業概要、ならびに同施設で実施される指導者講習会参加に際しての諸注意等について
- ② 野外教育関連施設であり、野外教育体験活動実施場所(附属坂出小)である「香川県立屋島少年自然の家」の施設や事業概要、ならびに同施設での野外活動参加に際しての諸注意等について
- ③ 指導者講習会、附属坂出小学校の野外教育体験活動の日程及び内容等についての説明、参加する際の諸注意等について

(3) 野外教育体験

- ① 野外教育体験活動の補助者として必要な実践的な知識の習得のための研修活動
五色台少年自然センターにおける指導者講習会に参加(6月6～7日/1泊2日)
- ② 野外教育体験活動が実施される場における補助者としての役割の遂行
屋島少年自然の家における附属坂出小学校の野外教育体験活動に参加
(6月19～20日/1泊2日)

教育情報環境の整備による大学と公立学校との連携・情報交換

～昨年度までの「情報ネットワークによる大学と公立学校との連携・情報交換」をもとに～

これまで附属教育実践総合センターでは、本学附属学校園（幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校）の先生方、ならびに当センター客員研究員の方々に、各先生方の専門分野の観点から、「児童生徒の見方・捉え方」や「カリキュラム開発のポイント」「教材・教具づくりの工夫」などについて、具体的な教科指導内容などをふまえながら解説いただき、話題ごとにビデオクリップ教材としてまとめ、インターネット上で動画配信してまいりました。

平成26年5月より、当センターの業務見直し・精選の一環として、インターネット上での動画配信を停止し、当センター事務室に当該教材を集録した DVD ソフトウェアとして配架整備をすすめております。これら DVD ソフトウェアについては、本学附属学校園の先生方のみならず、県教育委員会・県教育センター・公立学校の先生方などにも閲覧いただき、自己研修などにご活用いただけるよう、環境整備を行っております。

The image shows two overlapping screenshots from a Windows Internet Explorer browser. The top screenshot displays the Kagawa University VOD service homepage. The page features the university's logo and navigation buttons for different educational levels: 幼稚園 (Kindergarten), 小学校 (Elementary School), 中学校 (Middle School), 養護学校 (Special Support School), and 全般 (General). A message indicates that Windows Media Player is required to view the content. Below the navigation is a list of public content, including 'Red and White Plum Blossom Screen' and 'Energy Learning'.

The bottom screenshot shows a video player interface for the 'Red and White Plum Blossom Screen' content. The player includes a 'PLAY' button and a 'Contents 33' label. The video content area displays text about the purpose of the practice, which is to provide a comprehensive overview of Japanese art and to promote an understanding of the aesthetic values of the Edo period through the study of decorative forms.

キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

イ 内容

(1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の主体的な取組を促進する。

(2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

ウ 香川大学との連携について

平成 27 年度は、2 校 5 時間 2 名の香川大学の教職員を社会人講師として県立高校に招聘した。

教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な学習の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

2 授業の公開・開講状況・受講状況

平成 27 年度の第 1 学期には、「子育ての今と昔」「歌唱法基礎 A」「工芸 I A 及び工芸 I B」の 3 科目が、第 2 学期には「学校教育の国際比較」「日本古典文学を読む」「福祉住環境論」の 3 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 もしくは 18:00～21:10 に行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業として、「教育について考える～国際理解教育入門～」を実施した。

「学校教育の国際比較」を 3 名、「日本古典文学を読む」を 1 名、「教育について考える～国際理解教育入門～」を 49 名が受講した。

3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入料（1,000 円程度）が望ましい。

5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

学生ボランティア派遣事業

1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

学生ボランティア派遣状況（H28. 1. 13 現在）

	26 年度						27 年度					
	登録(継続含む)			派遣(継続含む)			登録(継続含む)			派遣(継続含む)		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	0	0	0	0	0	0	1	11	12	0	0	0
2年	4	7	11	4	7	11	20	47	67	1	1	2
3年	0	11	11	0	11	11	5	22	27	1	9	10
4年	1	14	15	1	13	14	4	12	16	0	11	11
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5	32	37	5	31	36	30	92	122	2	21	23

派遣先

	26 年度			27 年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	45	9	36	46	28 (香大6)	18
中学校	6	1	5	4	1 (香大1)	3
教支援セ	0	0	0	1	0	1
その他	1	1	0	1	1 (香大1)	0
計	51	10	41	52	30 (香大8)	22

派遣要請に対する派遣率(19.6%)

派遣要請に対する派遣率 57.7% (15.4%)

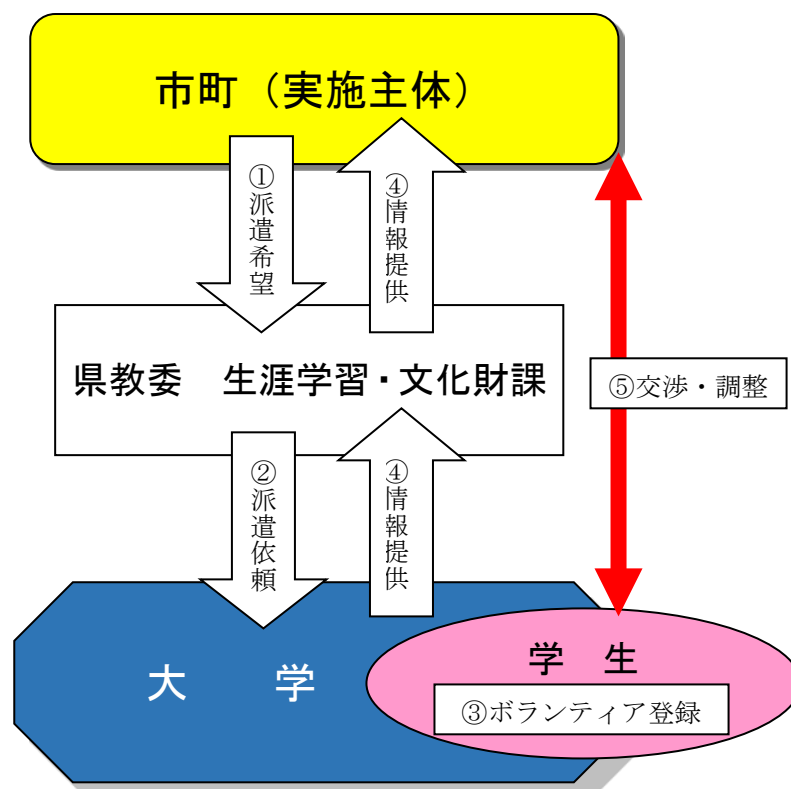
学生ボランティア派遣事業 (放課後子供教室)

香川県教育委員会事務局
生涯学習・文化財課

放課後子供教室の活動を支援する人材確保対策として、香川大学に学生ボランティアの派遣について依頼を行います。

【ボランティアを開始するまでの流れ】

- ①実施主体である各市町からの派遣希望を県生涯学習・文化財課で取りまとめます。
- ②大学に学生ボランティアの派遣について依頼を行います。
- ③ボランティアを希望する学生は、大学に学生ボランティア登録を行います。
*「学生ボランティア登録申込書」に必要事項を書き込み、「放課後子供教室」の欄にチェックを入れ、希望する子供教室名を記入します。
- ④その登録情報を関係する各市町へ情報提供を行います。
*各市町の担当者から登録した学生に協力依頼の連絡があります。
- ⑤具体的なボランティア活動への参加に当たっては、実施主体である市町と学生との交渉・調整により実施します。



第 1 4 回「未来からの留学生」を終えて

実施委員長 野崎武司

2015 年 10 月 11 日（日）に第 14 回目の「未来からの留学生 教育学部フェスティバル in 香大」を実施しました。天気にも恵まれ、本年も 1000 人を超える来場に恵まれました。

本年度は、高校生へのオープンキャンパスとしての意味合いを強化しました。高校生も参加できる講座の開講、高校生を案内するアドバイザー（教育学部の 1 年生）の配置、高校への案内ポスターの再配布などを行いました。



香川大学教育学部
第2回オープンキャンパス 2015

期日：平成27年10月11日(日)
場所：香川大学幸町北キャンパス
(教育学部)

香川大学教育学部では、第2回オープンキャンパスを「未来からの留学生」と合わせて、上記の日程で開催します。教育学部に興味のある高校生はぜひ参加して下さい。

8月に第1回のオープンキャンパスを行いました。そこでは、香川大学の学生たちが高校生を対象に様々なパフォーマンスを披露しました。

第2回のオープンキャンパスは、香川大学の学生たちが、香川県の子どもたちを対象に講座を実施します。教育学部の学生が精いっぱい子どもたちと触れ合う姿を体験ください。また高校生の皆さんが、大学生と一緒に子どもたちと交流するプログラムも用意しています。もちろん個別相談会もあります。

受付は、9時から(講座開始は9時半から)です。
詳しくは、子ども向けの案内ページを確認ください。
<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~mirai/>

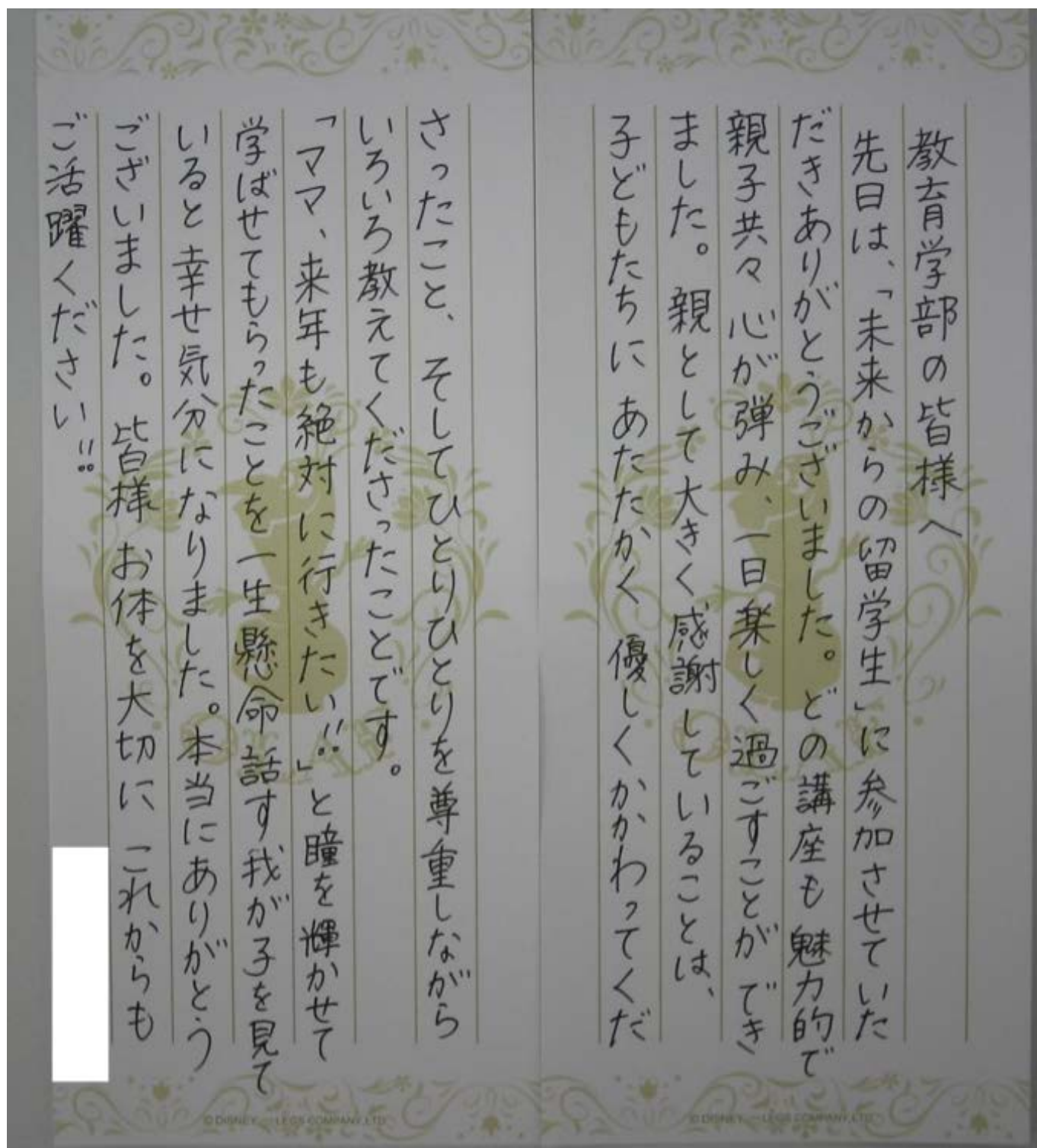
本年は、14の自由参加講座、17の事前申込講座を開講しました。学生たちが様々な工夫を凝らして子どもたちを迎えていました。大学生にとって、おおいに学びのある活動でした。また、昼休みには附属高松小学校の吹奏楽団が演奏してくれました。小学生のソロ演奏の場面もあり、参加した多くの保護者や子どもたちを魅了していました。

行事運営に、本年度も、多くの先生方、学生の皆さん（表紙のポスター制作：宮本準子さん他）の積極的な参加がありました。もちろん、大学事務スタッフの支援があつての行事運営であったことにまちがいありません。



これからもますます地域に貢献する香川大学教育学部の活動にご注目ください。

参加者の方から、次のようなお手紙をいただきました！ （感謝）



平成27年度特別支援教育コーディネーター協議会

1 目的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	7月22日	全県	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	379名
県立	9月29日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	44名
地域別	9月15日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	20名
	10月2日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	97名
	10月21日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	57名
	11月13日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	64名
	11月27日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	34名
	12月8日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	42名

3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
7月22日	特別支援教育概論	准教授 小方 朋子
	発達とコミュニケーション	教授 坂井 聡
9月15日	学習指導 算数学習の困難とその指導	教授 長谷川 順一
9月29日	高等学校における支援	教授 坂井 聡
10月2日	学校支援体制と外部機関との連携	准教授 宮前 義和
11月13日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	准教授 中島 栄美子
11月27日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武蔵 博文
12月8日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平

香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（学生向け小学校 CST・教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。平成 27 年度の主な取組みは以下のとおりである。

1. 受講者

(1) 学生

小学校 CST=160 名（継続 110 名、新規 50 名）

平成 27 年度前期修了 30 名、後期修了予定 15 名

（平成 23 年度修了 6 名、平成 24 年度修了 37 名、平成 25 年度修了 59 名、平成 26 年度修了 59 名）

教材 CST=28 名（継続 23 名、新規 5 名）

平成 27 年度前期修了 0 名、後期修了予定 6 名

（平成 24 年度修了 4 名、平成 25 年度修了 1 名、平成 26 年度修了 6 名）

(2) 現職教員

教材 CST=38 名（継続）

平成 27 年度前期修了 0 名、後期修了予定 1 名

（平成 24 年度修了 12 名、平成 25 年度修了 5 名、平成 26 年度修了 13 名）

2. 教材 CST 研修会

2-1. 小学校理科観察・実験研修会講師実習講座

	日付	内容	場所
1	2015 年 8 月 18 日	小学校理科授業スキルアップ教室 ・ 理科室の管理・運営に関する基本事項 ・ 安全確保に関する研修 ・ 観察・実験の基本的な技能について ・ 理科学習の進め方について ・ 小・中の系統性や接続等に関する研修	・ 高松市立新番丁小学校 ・ 丸亀市立飯山北小学校 ・ 坂出市立坂出小学校 ・ 土庄町立土庄小学校 ・ さぬき市立津田小学校 ・ 多度津町立四箇小学校 ・ 三豊市立詫間小学校
2	2015 年 10 月 24 日	高松塾 ・ 観察・実験の基本的な技能について ・ 第 4 学年「水のすがたとゆくえ」 ・ 第 5 学年「魚のたんじょう」 ・ 第 6 学年「電気の利用」	高松市立新番町小学校

2-2. 実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2015年5月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ムラサキイモの指示薬を使った実験 ・二酸化炭素を精製水にとかしたときの通電実験 ・細胞分裂の観察 	附属坂出中学校
2	2015年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・環境調和型機能性材料を活用したマイクロスケール教材開発 	香川大学
3	2015年6月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・水笛 ・蒸散の実験装置 ・カタラーゼの実験 ・気流の実験 	附属坂出中学校
4	2015年6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の授業で使える観察、実験の紹介 ・状態変化（ポップコーンの作成） ・静電気（ライデン瓶の作成） 	附属高松中学校
5	2015年6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・「電気のはたらき」4年 	附属高松小学校
6	2015年7月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・第6学年の「人や他の動物の体」の単元において、人や他の動物が体内に取り込んだ空気や食べ物の変化を手がかりに、体のつくりと働きについて推論し、どの体も巧みな仕組みになっていることを捉える力を育成するための授業構成の工夫や一人一人ができるデンプンの消化実験や肉と干し草との消化の違いを観察できる教材についての研修を行った。 	附属坂出小学校
7	2015年9月17日	<ul style="list-style-type: none"> ・紙皿グライダー ・プラスチックの分類 ・プラスチックの実験 (繊維作り ペンダント コップのラベル) 	附属坂出中学校
8	2015年10月14日	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「もののとけ方」単元における導入時の実験である、シュリーレン現象を効果的に見せるための方法について研修した。また、同単元でのものの重さの保存に関わる実験についての模擬実験も行った。後半には発展的な内容として、子どもの興味をひくためのスライムづくりに挑戦した。 	附属高松小学校
9	2015年10月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・ストローロケット ・結晶の紹介 ・酸・アルカリのお話 ・おとぎ話と科学 ・花卉の気孔の観察 	附属坂出中学校

10	2015年10月29日	<ul style="list-style-type: none"> ・第4学年で学習する「とじこめた空気と水」の単元において空気と水の性質と利用を子ども自らが捉えていけるような授業構成と教材について、研修を行った。なかでも、とじこめられた空気を押し縮めると押し返すという空気の性質と水は押し縮めることができないという水の性質がどのように日常生活の道具に利用されているか、エアポットとスプレアの仕組みをペットボトル噴水を作ったり、スプレー缶に空気を入れたりする活動から迫っていった。 	附属坂出小学校
11	2015年11月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・四国電力による高レベル放射線廃棄物の処理に関する講話と質疑応答 ・四国電力による霧箱を用いた放射線の観察 ・身近な材料を用いた光の全反射実験の教材の提案 ・アリの脱色法と観察 ・低摩擦を利用したものづくり 	附属坂出中学校
12	2015年12月3日	<p>参加した4名の研修生の内、3名が自作の教材を持ち寄り、どのように活用するかを発表した。また、その教材について、どのように改善すればよりよくなるか等について他の参加者と意見交流を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ろうそくと水で気圧の実験」 ・「身近なもので作る pH 指示薬」 ・「紙粘土を使った地層モデル」 ・「発泡スチロールを使った種子モデル」 ・「コケ植物のからだのつくりを調べよう」 ・「フリクションで温感シールをつくろう」 	附属坂出小学校
13	2016年1月31日	教材紹介	香川大学
14	2016年2月10日	教材紹介	香川大学
15	2016年2月18日	教材紹介	附属坂出中学校
16	2016年2月25日	教材紹介	附属坂出小学校

2-3. 理科授業力向上研修

	日付	内容	場所
1	2015年6月12日	<ul style="list-style-type: none"> ・化学変化と電池「身近な金属でつくる電池の秘密を探る」 ・植物と水「葉の気孔の分布と植物の生育環境『水』の関連を探ろう」 	附属高松中学校
2	2015年6月27日	・「電気のはたらき」4年	附属高松小学校
3	2015年10月17日	・「とじこめた空気と水」4年	附属坂出小学校

4	2016年1月28日	・上手につくって賢く使おう—電気と私たちの暮らし—	附属坂出小学校
5	2016年1月29日	・物が溶けるふしぎ	附属坂出小学校
6	2016年2月4日	・世界は3つでできている (物の性質) ・「自電」のススメ—電気エネルギーの地産地消—	附属高松小学校
7	2016年2月5日	・ものの「重さ」って何?	附属高松小学校

3. 小学校 CST 小学校理科基本実験修得コース

・もののおもさをくらべよう

5月11日、5月13日、5月15日、11月4日、11月5日、11月6日

・ふりこのきまり

6月22日、6月24日、7月24日、1月18日、1月20日、1月22日

・望遠鏡をもちいた天体観測

5月22日、5月25日、5月26日、5月27日、5月28日、11月20日

・試薬の希釈と廃液の処理 (中和) の方法

6月1日、6月3日、6月5日、11月9日、11月11日、11月13日

・魚の血管と血液の流れの観察

6月8日、6月10日、6月12日、12月14日、12月16日、12月18日

・ヨウ素でんぷん反応

6月15日、6月17日、6月19日、11月16日、11月18日、11月20日

・手回し発電機と光電池

6月29日、7月1日、7月3日、12月7日、12月9日、12月11日

・野外の食物を観察しよう

7月6日、7月8日、7月10日、11月30日、12月2日、12月4日

・天気の変化を測ってみよう

7月13日、7月15日、11月24日、11月25日、11月27日

・理科室の使い方

附属高松小学校 : 6月3日、6月12日、6月24日、11月11日、12月16日、2月10日

附属坂出小学校 : 5月21日、6月11日、7月2日、11月5日、12月7日、2月18日

4. 香川 CST 交流会 平成27年12月20日 (日) 9:30~12:00

・講演題目 : ICT活用によるアクティブ・ラーニング型授業法への再構成

—明治科学教育の知られざる真相・価値の解明とそれを現代的に甦らせる授業実践—

※巨大風船を使ったアトウッド型システムによるニュートンの運動法則の授業法などを実演

・講師 : 小林 昭三先生 (新潟大学名誉教授)

・場所 : 香川大学幸町キャンパス研究交流棟5階 ・参加人数 : 19名

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協力に当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長
副学部長
教育研究評議員
実地教育委員会委員長
就職専門委員会委員長
学務委員会委員長
入試委員会委員長
附属学校代表
附属教職支援開発センター長
事務課長

香川県教育委員会

教育長
理事
教育次長
総務課長
義務教育課長
高校教育課長
特別支援教育課長
香川県教育センター所長